



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月9日

上場会社名 株式会社 文溪堂
 コード番号 9471 URL <https://www.bunkei.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 名

(氏名) 水谷 泰三
 (氏名) 吉田 裕之

TEL (058)398-1111

(百万円未満、小数点第1位未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	10,809	6.2	1,827	7.6	1,850	7.7	1,270	6.5
2020年3月期第3四半期	10,177	3.8	1,697	4.7	1,717	4.6	1,193	8.6

(注)包括利益 2021年3月期第3四半期 1,319百万円 (9.8%) 2020年3月期第3四半期 1,200百万円 (12.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	202.66	—
2020年3月期第3四半期	190.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	18,975	14,542	76.6
2020年3月期	18,301	13,367	73.0

(参考)自己資本 2021年3月期第3四半期 14,542百万円 2020年3月期 13,367百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	15.80	—	15.70	31.50
2021年3月期	—	10.55	—		
2021年3月期(予想)				21.95	32.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注)配当予想につきましては、本日(2021年2月9日)公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,968	4.4	732	△9.5	755	△9.3	453	△18.1	72.21

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注)詳細及び個別業績予想につきましては、本日(2021年2月9日)公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	6,600,000 株	2020年3月期	6,600,000 株
2021年3月期3Q	322,555 株	2020年3月期	334,811 株
2021年3月期3Q	6,271,205 株	2020年3月期3Q	6,265,235 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況が続いております。

教育界においては、2020年4月より新しい「小学校学習指導要領」が実施されました。この新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱として整理され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた「カリキュラム・マネジメント」の一層の推進が求められております。

このような10年先の社会を見据えた新しい教育が始まりましたが、新型コロナウイルスの感染が広がり、全国すべての小学校・中学校・高等学校の臨時休業が今年の3月から5月末まで続きました。教育現場ではオンライン授業や教師による家庭訪問などの対応、学校再開後は時間割編成の変更、年間行事の見直し、清掃消毒作業など様々な対応に追われております。そのようななか、文部科学省は子供たちの学びを保障する観点から、2023年度の実現を目指していた、1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワーク環境を整備する「GIGAスクール構想」の前倒しを進めております。

このような情勢を背景に、当社グループは主力である小学校図書教材においては、価格や付録などの厳しい競争が進むなか、基礎・基本の定着や活用する力の育成と評価を念頭に、教育現場のニーズに応えた改訂を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高10,809,302千円(前年同四半期比6.2%増)、経常利益1,850,632千円(前年同四半期比7.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,270,977千円(前年同四半期比6.5%増)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①出版

小学校図書教材においては、本年度より「新学習指導要領」が全面実施され、コロナ禍にありながら、求められる基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を確認できる教材として、全国の教育現場から支持を得ることができました。また、2学期以降の継続採用も受注することができました。

テストなどの評価教材では、基礎的な読解力などが確認できる新企画に加え、きめ細かく採点基準を提示した冊子型の教師用書、教師の採点処理業務の負担を軽減する得点集計用ソフトが教育現場から好評を得ることができました。また、本年度より新たに小学校5・6年生で英語が教科化され、いち早く教育現場のニーズに合わせたテストを開発したことなどにより、実績が増加いたしました。

ドリル教材などの習熟教材では、基礎から発展的な内容まで児童の発達段階に合わせて学習できる企画に加え、ノート学習やスキル学習の提案が受け入れられ、実績が増加いたしました。

季刊物教材では、新型コロナウイルス感染症の影響で夏季休業期間が短縮されたことにより、夏休み教材の実績が減少いたしました。

中学校図書教材では、新学期用教材は実績が増加いたしました。夏季休業期間の短縮により夏休み教材が大幅に減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は8,229,175千円(前年同四半期比8.0%増)、営業利益は2,177,783千円(前年同四半期比2.4%増)となりました。

②教具

小学校教材・教具においては、長期間の臨時休業措置がとられた影響により厳しい状況が続く、図画工作など一部の教材では、実績が減少いたしました。しかし、年間履修内容の遅れを土曜授業の実施などで取り戻した結果、ほぼ昨年実績まで回復いたしました。

「裁縫セット」や「画材セット」では、徐々に受注が回復し実績が増加いたしました。一方、「書道セット」では、回復基調にあるものの嗜好の多様化の結果、実績は減少いたしました。

家庭科布教材の「エプロン」では、児童の嗜好に合った絵柄が支持されたことにより、実績が増加いたしました。

中学校・高等学校向けの家庭科教材ブランド「クロッサム」では、休業期間中は大きく減少し、調理実習の見送りや共同で使用するミシンを使用しない学校が増加しましたが、手縫い教材などが支持されたことにより、実績が増加いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は2,580,127千円(前年同四半期比0.8%増)、営業利益は311,247千円(前年同四半期比29.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は674,664千円増加して18,975,842千円、負債は500,266千円減少して4,433,744千円、純資産は1,174,931千円増加して14,542,098千円となりました。

資産の主な増減は、現金及び預金の増加585,089千円、受取手形及び売掛金の増加686,565千円、商品及び製品の減少976,257千円、仕掛品の増加529,490千円であります。

負債の主な増減は、支払手形及び買掛金の減少260,872千円、電子記録債務の減少636,341千円、未払法人税等の増加292,433千円であります。

また、純資産の主な増減は、利益剰余金の増加1,106,386千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2020年8月6日に公表しました2021年3月期の業績予想及び配当予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2021年2月9日)別途公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,975,807	5,560,897
受取手形及び売掛金	1,220,428	1,906,994
有価証券	400,670	245,472
商品及び製品	3,239,430	2,263,173
仕掛品	628,843	1,158,334
原材料	309,634	312,201
その他	74,637	53,449
貸倒引当金	△1,444	△2,479
流動資産合計	10,848,008	11,498,043
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	731,999	840,288
土地	3,308,796	3,308,796
その他(純額)	123,413	121,791
有形固定資産合計	4,164,210	4,270,876
無形固定資産	187,537	201,704
投資その他の資産		
投資有価証券	2,835,579	2,738,480
繰延税金資産	51,603	44,938
その他	233,761	240,574
貸倒引当金	△19,522	△18,775
投資その他の資産合計	3,101,421	3,005,218
固定資産合計	7,453,170	7,477,799
資産合計	18,301,178	18,975,842

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,288,152	1,027,279
電子記録債務	1,578,095	941,754
短期借入金	110,204	173
未払法人税等	139,227	431,661
引当金	63,000	46,750
その他	903,443	1,111,156
流動負債合計	4,082,123	3,558,775
固定負債		
長期借入金	369	40,251
繰延税金負債	34,804	95,810
役員退職慰労引当金	251,249	26,244
退職給付に係る負債	523,579	464,850
長期未払金	—	212,360
その他	41,884	35,451
固定負債合計	851,887	874,968
負債合計	4,934,011	4,433,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,917,812	1,917,812
資本剰余金	1,832,730	1,841,824
利益剰余金	9,944,994	11,051,380
自己株式	△310,844	△299,458
株主資本合計	13,384,693	14,511,560
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△317	43,073
退職給付に係る調整累計額	△17,209	△12,535
その他の包括利益累計額合計	△17,526	30,538
純資産合計	13,367,167	14,542,098
負債純資産合計	18,301,178	18,975,842

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	10,177,810	10,809,302
売上原価	5,500,147	6,074,848
売上総利益	4,677,662	4,734,454
販売費及び一般管理費	2,979,696	2,906,660
営業利益	1,697,966	1,827,793
営業外収益		
受取利息	6,983	7,146
受取配当金	9,959	9,542
受取賃貸料	19,323	19,516
受取保険金	1,282	1,242
雑収入	11,253	16,033
営業外収益合計	48,803	53,481
営業外費用		
支払利息	5	42
売上割引	29,237	30,599
営業外費用合計	29,242	30,642
経常利益	1,717,526	1,850,632
特別利益		
固定資産売却益	13,424	—
投資有価証券売却益	—	5
特別利益合計	13,424	5
特別損失		
固定資産売却損	2,231	—
固定資産除却損	411	3,131
投資有価証券売却損	—	159
投資有価証券評価損	—	204
特別損失合計	2,643	3,495
税金等調整前四半期純利益	1,728,307	1,847,142
法人税、住民税及び事業税	460,168	520,476
法人税等調整額	74,734	55,688
法人税等合計	534,902	576,165
四半期純利益	1,193,404	1,270,977
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,193,404	1,270,977

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	1,193,404	1,270,977
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,224	43,391
退職給付に係る調整額	5,073	4,673
その他の包括利益合計	7,298	48,064
四半期包括利益	1,200,703	1,319,041
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,200,703	1,319,041
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症について)

新型コロナウイルスの感染拡大により、再び小学校・中学校が全国的に臨時休業になった場合、学校で使用する出版物、教材・教具の受注が変動し、事業活動及び業績に影響を与える可能性があります。しかし、現時点においては通常の授業が実施されており、今年3月末までには、定められたカリキュラムが全て消化されるものと仮定しております。この場合、繰延税金資産の回収可能性の判断及び固定資産の減損の判断に与える影響は軽微であると考えられるため、決算日現在の見積りに大きな影響を与えるものではないと判断しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版	教具	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,619,496	2,558,314	10,177,810	—	10,177,810
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,619,496	2,558,314	10,177,810	—	10,177,810
セグメント利益	2,125,447	240,850	2,366,298	△668,331	1,697,966

(注) 1 セグメント利益の調整額△668,331千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の販売管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版	教具	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,229,175	2,580,127	10,809,302	—	10,809,302
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,229,175	2,580,127	10,809,302	—	10,809,302
セグメント利益	2,177,783	311,247	2,489,030	△661,237	1,827,793

(注) 1 セグメント利益の調整額△661,237千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の販売管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。